



サルビア

令和2年7月31日 第15号

伊勢崎学校教育構想 2020 重点

「伊勢崎学府制」による

地域と連携・協働した人づくり

伊勢崎市教育委員会では学校教育の取組の重点として、今年度も「伊勢崎学府制」を推進しています。「伊勢崎学府制」の目的は、学校と地域が組織的に連携・協働して、「ふるさと伊勢崎」に「誇り」と「愛着」をもった 未来の伊勢崎を切り拓く人づくりを行うことにあります。今回は、本校での取組を紹介します。

久保田忠雄 様、苗を育てていただきありがとうございます 6年 総合「サルビアの栽培」 5年 総合「小菊の栽培」

毎年、6年生と5年生が「総合的な学習の時間」に行うサルビアと小菊の栽培は、赤堀地区に暮らす本校児童にとって、「ふるさと赤堀」の歴史を知り、先人達の地域への思いを学ぶ大切な授業です。

この授業では、毎年5月に「花いっぱい運動」の協力者で学校評議員でもある 久保田忠雄様 の指導を受けながら「サルビアの種まき」、「小菊の挿し芽」を行うのですが、今年は新型コロナウイルスによる臨時休校のため実施することができませんでした。そのような中、学校再開後すぐに授業が始められるようにと、サルビアと小菊を育ててくださっていたのが久保田様でした。久保田様、そして地域の方々の思いを受けて、見事な花が咲かせられるように世話をしたいと思えます。



小菊の里：今から20年前に、農業委員さん達を中心となり、地域や赤堀町発展のため、当時はあまり人が来なかった赤堀町の北端に位置する磯区峰岸山南面に小菊 22,000 株とサルビア 3,000 株を植えたのが始まりです。

3年 理科「植物の成長の様子」

3年生理科「植物の成長の様子」の学習にあたり、本校では社会科や食育の視点を取り入れて、地域の農産物である「ナス」を教材として活用しています。

「ナスの植え付け」の際には、地域の小沼大輔様にご指導いただきました。その様子が右のとおり、上毛新聞に掲載されましたので紹介します。講師は、伊勢崎市経済部農政課で結成された伊勢崎市「農&食」の戦略会議メンバーで、地域農業の活性化を図るため、農産物のブランド化事業を核に商品開発や販売経路の開拓を進めるとともに食育や地産地消に取り組んでいます。

